



袋高通信

# あいのだより

'18 12月号

12月20日発行

通巻第170号

静岡県立袋井高等学校

## 保護者の活動の紹介

六月二日（土）の緑風祭で、PTA広報・研修委員会の保護者が中心となり、バザーを開催しました。活動された保護者の声を紹介します。

本年度の緑風祭でのPTAバザーも、盛況のうちに終えることができました。

バザーといえば、皆様の善意なしには成り立ちません。品物を提供してくださった方、買いに来てくださった方、御協力いただいた先生方、そして広報研修委員会の役員の皆さんの善意で成り立ちます。この善意のお金は生徒会活動に是非有効にお役立ていただければと思います。

さて、今年は特に写真の展示に力をいれました。お子さんたちの普段、親にはなかなか見せない表情をカメラに収めることができました。また本年度も広報研修委員会では行事の写真をたくさん撮り、来年のバザーでまた皆様に御覧いただきたいと思っております。

今後とも御協力よろしくお願います。

九月一四日（金）、一〇月一九日（金）、  
一二月一四日（金）には、PTA生徒・保健委員会に御協力いただき、生徒・教員と共に交通安全街頭指導を実施しまし

た。  
活動された保護者からの感想を紹介いたします。

今年も八幡神社で街頭指導をさせていただきました。通学する生徒達は、元気に挨拶をしてくれたり、会釈をしてくれました。とてもほほえましく思いました。

さて、八幡神社前は、狭い通路の割には比較的交通量が多く、自転車や歩行者がいるのにもかかわらず、スピードを出している自動車がありました。また、右側通行をしている自転車の子供もいました。街頭指導をやっていてもこの状態であると、普段はもっと危険な場面があるので、はないかと心配になりました。毎日利用している道路では、気を抜きやすいものです。知っている道路ほど注意や安全確認をしつかりして自分の身は自分で守ることを意識してほしいと思います。先生方にお任せするのはなく、家庭でも親が子供に交通マナーを守って自転車に乗ることを伝えなければと思います。

生徒保健委員会をやらせていただいて、普段見ることのできない子供の通学姿を見ることができて、よかったです。

（文責 総務課 山内）

## 基礎を広く学ぶとき

一〇月初めに、嬉しいニュースがありました。昨年まで静岡県立大学の理事をお務めになっていた本庶佑さんが、ノーベル医学生理学賞を受賞なさったニュースです。

多くの会見が行われ、多くの記事が新聞に掲載されましたが、その中で基礎科学研究について「基礎的な研究から臨床につながるように、今回の受賞が基礎的な分野の多くの研究者を勇気づけられれば望外の喜びです」と言及し、基礎研究を登山に例えて、「何が正しいのか、重要なのか分からないまま、山を攻めよう」というのはナンセンス。多くの人がたくさん山を踏破して、そこに何が



理解して、どの山が重要か調べる段階だ」とその重要性を訴えていらっしやったことが印象的でした。

この本庶さんの言葉は、基礎科学研究についてのものですが、広く学問に通ずるものでもあります。近年は実学志向が強くなり、「実生活に役に立つこと」でないと学ぶ意味がないと考える人も多いようです。しかし、どの分野においても、基礎研究が正しく成されなければその上に立つ応用は成り立ちません。砂上の楼閣はすぐに消えてなくなります。

ごつつか、進路を考えるときに「役に立つこと」「資格が取れること」から考えて、学問の間口を狭くしないでいただきたい。もちろん、「役に立つこと」「資格が取れること」も大切ですし、なくてはならないものです。しかし、世の中にはまだ出会ったことのない学問が本当にたくさんあるのです。多くを知り、その中から選択していくこと。これは、皆さんの将来のために必要不可欠なことではないでしょうか。

高校生活においては、学習内容の選り好みせず、広く基礎を身に付けるために学習時間を十分に確保し、集中して学習することが、将来、大きな財産になるはずです。また、長時間集中できる「精神力」「体力」を鍛えることもなります。初めから「役に立つこと」を選んで学ぶの

ではなく、多く学んだことの中から「役に立つこと」を見つけて出す。それが深い教養、豊かな人間性を育むのです。

(一) 学年主任 大石真理

### お金の話

高校生をもつ親にとって気になるお金の話。大学受験も一年後に迫り頭の痛いことです。

大学受験はお金がかかる。話には聞いたことがあるけれど、現実には面すると気が遠くなりかけます。

まず受験料。一校につき三万五千元、国公立もセンターと二次を合わせると三万五千元になります。これに交通費、場合によっては宿泊費が加算され、受験だけで五〇万円なんてこともあります。

めでたく合格しても入学金に授業料。国公立でも合わせて八〇万、私立理系では一五〇万ほどになります。

生まれたときからコツコツとためていた学資保険も初年度で吹っ飛び、よくある話です。

では高校生はどうでしょう。あまり話題にはなりません。が考えてみてください。

まず受験料。一千二百円。桁が違います。修学支援制度で授業料は減免。教材費や修学旅行のための校納

金が年間一三万円ほど。

ざっと計算して大学生の十分の一程度です。

では、高校生には本当にお金がかかっていないのでしょうか。実は調べてみるとかなりのお金が高校生のために使われているのです。

まず、校舎。これには償却費がかかっています。五〇億円で建てた校舎、体育館、グラウンドなど、これの建て替え時期を五〇年とすると一年あたり一億円、これに維持費電気代などの運営費がかかります。

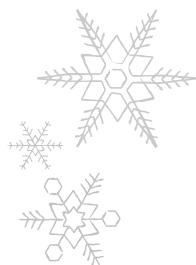
また高校生にかかわる教員の給与など人件費まで合わせると、一人当たり百万円を超えるお金が使われています。

本校の場合県立ですから、このお金は静岡県が県民から集めた税金で支払われることになります。未来の静岡県を豊かにするため、高校生に先行投資しているのです。

ある計算によると授業一時間にかかる費用は一人当たり二千円強とされます。

投資に見合う日々を送りたいものです。

(二) 学年主任 加藤久仁寿



### 「カウントダウン」は始まっている

時の流れは早いものです。

生徒たちには「文武両道」を目標に指導してきました。

さて、いよいよ「大学入試センター試験」まであと八〇日、この原稿を書いている時点で「カウントダウン」は始まっているのです。この「センター試験」は本校の学習面における大きな目標として指導を続けてきたものです。良くも悪くも、自己採点という形でひとつの結果が出ます。その結果を基にそれぞれの志望校へ出願をしていくわけですが、各自、悔いの残らぬよう精一杯「センター試験」に向けての準備をして欲しいと思います。

そしてその準備(受験勉強)で得られるもの(学力)は、入試への不安を解消するもの、そして進学先での強い味方となり、支えてくれるものになります。そこで周りに見せた姿勢(易きに流れず、不安に打ち勝っていく)こそがこれからの人生における大きな財産になり、その姿勢を育てることが「進学校」である袋井高校の役割ではないかと思えます。

部活動においては、それぞれの部活動で活動の中心となっている姿が見られました。運動部は、それぞれの競技で全国総体を目指し(陸上競

技部が今年度は全国総体出場を果たしました。文化部は「緑風祭」を最後の発表の場としてそれぞれの分野で活躍してくれました。

保護者の皆様の目から見て、この三年間の生徒諸君の成長ぶりはいかがだったでしょうか。

「センター試験」がゴールではありません。その後の私大・国公立大・学前・中・後期受験まで、三学年一同生徒と一緒に最後までがんばっていきます。

御家庭のサポートもよろしくお願ひいたします。

(三学年主任 落合克弥)

### 教務課

#### 一月の修学旅行を実施して

本年度より、二年度に実施される修学旅行が、一月の第三週になりました。二年生ができるだけ早く受験勉強に取り組めるようにするため変更しました。この、あいのだよりがお手元に届くころには、三年生はセンター試験直前の受験勝負モードに入っています。二年生も普段の生活より時間のあるこの冬休みに、しっかりと自分の進路について家族と話しあいの機会を持つてください。一月になったら受験生としての自覚が二年生に少しでも芽生えていることを期待します。

#### 科目選択について

来年度の「文理選択」(一年生)、「コース選択」(二年生)について、クラス編成が決まりました。

一年生は、文型五クラス一八八人、理型三クラス一〇五人で来年度クラス編成を行います。文型は、四〇人クラスが三つと、三九人クラスが二つ、理型は、三五人クラスが三つの構成になります。クラス間でやや人数の違いはありますが、どのクラスの生徒に対しても同一指導が行える体制を整えていきます。

二年生は、文Iコース(私大文系希望)は、九三人、文IIコース(国公立大学文系希望)は、一一五人の構成になりました。現三年生と同様に、文Iコース選択者で二クラス、文IIコース選択者で二クラス、文I、文IIの両方の選択者がいる混合クラスが一クラスで編成を行います。理型については、数学Ⅲ選択者が七六名、数学演習選択者が四〇名でした。理型は二年時と同じく三クラスで数学選択は混合で編成を行います。

特進クラスについては、各学年とも、文型、理型に二クラスずつ設置します。

#### 三年三学期

三年生は、三学期は登校する日が二六日しかありません。センター試験終了後の一月二二日から午前授業

になります。二九日は一、二年生マラソン大会のため三年は家庭学習日です。受験で学校を休む生徒が増える二月四日(月)からは、三年生は家庭学習日になります。二月は二二日(金)と二八日(木)は登校日です。残り少ない学校生活を大切にさせていただきます。試験で休む場合は、必ず事前に担任へ生徒本人より連絡をさせるようにお願いします。

(教務課長 山下進也)

### 進路課

三年生の授業が演習になって早二か月あまり。毎回センター問題集に取り組み、結果に一喜一憂する生徒もいれば、解説を食い入るように読み込んで次は同じ過ちを繰り返すまいと問題集にアンダーラインや書き込みをする生徒もいます。毎年繰り返される、現代文の二学期後半の授業風景です。

しかし、教科によってその様相は異なっているようです。例えば物理と地理は教科書の内容を終えるのが期末テストの頃になるそうです(もしかすると、期末テスト後になるかもしれないとも)。生物と化学はもう少し早く演習に入れるそうです。日本史、世界史はセンター直前まで教科書に沿った授業が続きます。日本史、世界史は演習に特化し

た授業がありますが、センター試験一か月前の現在、地理と理科はまだまだ新しい学習事項に追われているのが三年生の実情のようです。

つまり、この時期に英数国をやっているのは、センター試験に間に合わないことは火を見るより明らかです。一学期後半は理科社会を学習すべき時期。それ以前に英数国の学習は終わっているのが理想的なのです。

ところが本校生徒の例年の学習時間調査の結果では、この時期になっても英語、数学に追われているようです。三年夏休みまでに三教科を終えるにはどうしたらよいのでしょうか？

答は簡単です。受験勉強の始まりを早くすればいい。英語も数学も国語も教科書の内容は二年で終わります。(二年理型数学は二学期末で終わるかもしれませんが)三年〇学期と呼ばれる時期の過ぎし方が、一年後の結果と密接につながりをもつのです。

今年の二年生はセンター試験最後の学年です。そして一年生は新テスト導入後最初の学年になります。制度の変わり目は、全体的に様子見傾向が強い出願になり、難関校を受験する層の受験生が手堅い出願をしてくるのが予想されています。結果として本校の生徒には厳しい受験となりそうです。ならば、打つべき時

に打てる手は打っておかなければならない。二年生も一年生も早めの切り替えが必要です。

(進路課長 大村生実)

## 生徒課

### 一学期を振り返って

一学期が終わり、冬季休業に入ります。一学期には「体育大会」、「口ゴスの集い」、「疾風祭」など袋井高校の伝統的行事がありました。生徒の自主的な運営のもと、それぞれの立場で積極的に参加し、一生懸命取り組んでいました。部活動においても活動の中心が二年生に替わる中で各種大会や発表会で好成績を収めています。

さて、冬季休業を迎えるにあたり下記の点について御注意いただきたいと思います。一つは自転車による交通事故です。今年度、県内では高校生の自転車運転中の死亡事故が発生しました。本校でも登下校において右側通行や、一時停止をしなかり並進などをしていて、地域から苦情を頂いたり違反切符をもらったりするケースも多くなりました。命を守る観点からも交通ルールやマナーを守り、時間に余裕を持った安全な登下校となるよう御家庭でも御指導をお願いします。そして年末の交通安全県民運動実施期間が一月

一五日(土)から二月三日(月)までの一七日間となっています。運動の重点は、(一)高齢者と子ども  
の交通事故防止、(二)夕暮れ時から夜間の交通事故防止、(三)飲酒運転の根絶です。生徒を含めて保護者の方にも、ぜひ御注意をお願いします。

次に不審者の問題です。警察などからの情報は、本校のホームページに掲載しています。特に必要な場合は、生徒たちに連絡し、注意を促しています。声掛けや露出等の事案は小中学生に多いものの、高校生の被害も心配されますので、冬季休業中においても校外生活には、御注意をお願いします。特に夕暮れや夜間の外出には注意を払ってください。もし、不審者を見かけたり、被害にあったりした場合は、警察と学校への連絡をお願いいたします。

冬季休業は短いですが健康に留意し、しっかりとした計画を立てて生活させてください。終業式には「冬季休業中の諸注意」を配布します。三年生は補習も組み込まれていますし、部活動の計画表も配布されますので、御覧ください。

(生徒課長 澤木 徹)



## 図書課

### 親子で本を読む

「家読」「親子読書」等、「お家で親子で本を読む」ということが全国的に色々な形で行われています。

オルコットやオースティンなどの女流作家はその父や兄弟の蔵書を共に読む中で、作品を書くようになりました。日本でも『更級日記』の作者は母たちが語る源氏物語の世界に憧れ「読ませてほしい」と仏に頼ります。子供たちだけではありません。太宰治は防空壕の中で子供に「かちかち山」等を読み聞かせたことをきっかけに、小説『御伽草子』を残しました。大江健三郎は子供と本を読む中での発見をエッセイで述べています。「家族での読書」は皆により影響を与えてくれるようです。

夏休み一、二年生の保護者の皆さんにお願ひして、

- ①中高生の頃読み印象に残った本。
  - ②お子さんに読んで欲しい本。
- についてのインタビューをお子さん  
から受けていただきました。

おうちの方が「どんな本を読んできたのか」、「どんな本を読んでほしいと思っているのか」を直接聞くことができお子さんたちにもよい経験になったようです。

また、保護者の皆さんからも「本について子供と共有できる時間が持

てよかった。」「子供たちにも世代を越えた良書を読んでほしいと思っていたのでよい機会になった。」「自分自身も本を読む時間を持ちたいと感じた。」等の感想をいただきました。

「親子読書は小学校で終わり。」では、もったいない。高校生になり、様々な角度から物事を考えられるようになったお子さんと同じ本を読み、感想を述べ合う。それはとても楽しく有意義なことでしょう。難しいことかもしれませんが、これをきっかけにそんな御家庭が増えてくれることを願ってやみません。

図書館では、お子さんを通じて保護者の皆さんへの貸し出しも行っています。どうぞ御活用下さい。

(図書課長 戸塚 恵)



保健厚生課

「心と身体の健康管理」

一 保健室より

保健室では、体調不良で来室した生徒一人ひとりに問診をし、不調の原因と向き合うことを促しています。具体的には、食事や睡眠の量・質などの生活面や内面の部分の健康課題の有無について自分自身で振り返ることをさせています。多くの生徒は、そういった要素を自覚しているため、次には予防行動をとることができるようになります。一方、内面の要因を自覚していてもすぐに解決に至るような行動がイメージできない場合は、生徒と一緒に必要な課題と向き合い、より良い状態になるための解決策を探っています。保護者の皆様におかれましても、お子さんの様子で御心配なことがありましたら担任をはじめ、保健室にもお気軽にお問い合わせください。

今年度の保健室の来室状況は、けがや病気による来室が昨年と比べ二割程度減り、健康相談が一〜二割増えています。体調不良となる要因は様々ですが、主な要因としては日々の生活習慣の乱れに起因するものが多いようです。最近ではスマホ等の夜間の使用による影響もでていくように推測されます。御家庭では、学校生活を充実させるためにも、

次の項目についてお子さんと話をする機会を持つていただきたいと思います。

- (一) スマホの利用のルールについて
- (二) 勉強時間と睡眠時間
- (三) 食事と休息

平成30年度 保健室来室状況 (4月~10月)

月別件数	けが	病気	健康相談	その他	合計
4月	12	40	4	0	56
5月	13	90	20	0	123
6月	8	122	22	2	154
7月	13	45	22	2	82
8月	1	9	3	0	13
9月	8	109	15	0	132
10月	1	21	6	0	28
合計	56	436	92	4	588

二 教育相談室より

昨年より、月に一回、スクールカウンセラーによる学校でのカウンセリングの日に設けています。事前にカウンセリングを申し込めば、生徒だけでなく関係する保護者の方も御利用していただけますので、悩みを抱えてどうしようもなくなる前に、お気軽に御利用いただければと思います。お問い合わせは、相談室担当または養護教諭までお願いします。

三 委員会活動より

各委員会活動を通して、学習環境の美化・健康管理について活動しています。整備委員会は、「校内の「3」の減量化」や教室・トイレの「環境美化」を呼びかける活動をし、保健委員会は、トイレ・教室の「衛生管理」に努め、救命講習等への参加などを通して「命の大切さ」も学んでいます。

(保健厚生課長 横地 亨)

総務課

保護者の皆様へ

PTA会員の皆様には、五月のPTA総会、六月の地区会そして九月の学年PTA等に多数御出席いただき、誠にありがとうございます。また、PTA役員・評議員の皆様には役員会・理事会・評議員会等への出席をはじめ、委員会活動への積極的な取り組みなどに対し深く感謝申し上げます。

本校PTA活動の中心は、PTA評議員による委員会活動です。生徒・保健委員会、広報・研修委員会および進路委員会の三つの委員会によって活発な活動を展開していただいています。それぞれの委員会は一六名のPTA評議員で構成されています。

委員会活動の現在までの活動実績

を紹介します。まず、生徒・保健委員会では、九月一四日、一〇月一九日および一二月一四日の生徒登校時に、各当番委員数名ずつが、交通安全委員生徒、職員とともに「自転車マナー向上キャンペーン街頭指導」を行いました。一〇月一三日、一四日の袋井市祭典の補導にも参加しました。また、一二月一四日には多くの委員が学校保健委員会に出席しました。

広報・研修委員会では、緑風祭の際のバザーを担当し、値札付けなどの事前準備から当日の販売まで大盛況のうちに終えることができました。収益は生徒会に寄付しました。(次頁の参考資料を御覧ください。)また、緑風祭、球技大会や体育大会、あるいは公開授業等の学校行事の際には、各当番委員が記録写真を撮影しています。一月のマラソン大会の様子も撮影する予定です。

進路委員会では、各当番委員が一二月三日に一、二年生の進研模試、三年生ベネッセ駿台マーク模試の監督を務めました。

以上の他、PTA評議員の皆様には、委員会ごと、学年ごとで各種学校行事の駐車場係としても御協力いただきました。緑風祭では、生徒・保健委員会、進路委員会の評議員が、一時間交代で、一般公開日の一日を終日担当しました。六月の地区会で

は、三学年の評議員、九月の一学年PTAでは、二学年の評議員、二学年PTAでは、一学年の評議員が、それぞれ駐車場係を担当しました。

本校教育活動、PTA活動の推進のために今後とも力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げます。

最後に、本校では、緊急連絡用に「きょうなネット」によるメール連絡を利用して頂きます。未登録の場合は是非登録をお勧めします。登録方法は、本校HPに掲載してありますので御覧ください。

〔参考資料〕

平成三〇年度PTAバザー収益金は、九〇,七〇二円でした。

本年度は、例年より多くの出品をいただきました。

(総務課長 牧田 真)

## 研修課

### 本校の研修活動

お子様方の成長、育成を念頭に、本年度も研修課では教員を対象に様々な研修を行って参りました。教員の資質向上はお子様方の確かな学力の定着に大きく寄与するとの認識のもと、私たち教員も研修には真摯に取り組んで参りました。

「アクトイヴ・ラーニング」導入の必然性が言われて久しいですが、ともすれば受動的であったそれまで

の授業形態が、本校におきましても、生徒がいかに主体的、能動的に学べるかを追求する中で様変わりして参りました。社会では今や必須スキルであるプレゼンテーション能力や国際的舞台で求められる能動的発話能力を具える時期として、高校生の時期は重要な時期であると考えます。私も教員もそれを意識し研修に取り組んでおります。

具体的には、教員相互の授業参観とそれへの評価、他校の授業参観や意見交換、教科毎の県全体での研究会、県教育委員会主導によるアクトイヴ・ラーニング研究授業の実施、さらには予備校様の授業参観による大学受験を見据えた効果的な指導方法の研究など多岐に渡ります。保護者の皆様方にも本校の公開授業などを通して本校の授業の実態を御覧いただければ幸いです。

また本年度は、本校のオーストラリア姉妹校であるトーマス・ハツサール・アングリカカンレッジに訪問して参りました。一・二年生のみ参加でしたが姉妹校訪問もさることながら、ホームステイにおきましても多くの収穫がありました。参加者の代表生徒が全校集会で発表を行いました。その内容はすばらしく、参加した生徒たちの確かな成長が窺えました。人数に限りはあるものの、海外姉妹校との関係を維持し、アカ

デミックな視点から国際的な空気に触れる機会を提供することは必要なことだとの認識のもと、当行事を継続していくつもりであります。

来年度はカレッジの生徒を受け入れる年になります。二〇一九年四月初旬に生徒約一〇名が三日程度で本校に来校しますが、ホームステイを受け入れてくださる御家庭を募っております。外国の生徒を受け入れて生活を共にすることは国際的視点を養う絶好の機会でもあります。お子様の御成長の観点からも受け入れを前向きに御検討いただければ幸いです。

(研修課 久野正幸)

## 広報課

### 本年度の広報活動について

広報課は、袋井高校の様子を発信するために、学校ホームページや学校案内を作成し、中学三年生には「中学生の高等学校一日体験入学」と「公開授業」の案内としてリーフレットを作成して頂きます。今年度は、昨年まで作成した「ロイピー通信」を廃止し、「学校新聞」の発行を担当することになりました。こちらは、例年通り年二回の発行を予定して頂きます。是非、御覧ください。

夏休みに行われた「中学生の高等学校一日体験入学」では、中学生が

八〇〇人以上、保護者は二五〇人以上が参加しました。その際、学校説明や中学生の誘導などに、生徒会や一、二年生のクラス代表(評議員)、放送委員などの生徒が携わりました。昨年に続き、司会進行を生徒会の生徒が行いました。事後のアンケートでは、生徒会による学校説明や挨拶をはじめとする誘導係の対応の仕方に、高い評価のコメントが多数寄せられました。担当の生徒は、自分の役割を把握し責任を持ってやってくれたと感謝しています。

一月には「公開授業」を実施しました。土曜日を授業日とし、五時間目の一、二年生の授業と放課後の部活動を公開しました。本校の保護者に加え、中学生とその保護者にも公開して頂きますが、多くの方に来校していただきました。あわせて三二文化祭「疾風祭」を開催し、文化部の作品展示を行いました。袋井高校の普段の様子を、保護者だけでなく中学生にも見てもらえたいと思っております。

広報課では、今後も生徒の活動を中心に、袋井高校の様子を発信していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(広報課長 石川泰三)